

# 感染症発生動向調査委員会報告 4月

## 《今月のトピックス》

- 東京都で麻しんの報告数が増加しています。横浜への波及が心配されます。
- 風しんの報告が4例見られました。4例とも成人例でした。
- インフルエンザによる学級閉鎖が4月に2件見られました。流行の状態は横ばいです。

### 全数把握疾患

#### <腸管出血性大腸菌感染症>

1例の報告がありました。感染源は不明です。感染経路については不明です。腸管出血性大腸菌感染症の発生時の対応については、横浜市衛生研究所HPをご参考ください。

横浜市衛生研究所HP <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/infc-o157-guide.html>

#### <マラリア>

1例の報告がありました。熱帯熱マラリアでした。ギニア共和国での感染と思われます。世界的に耐性マラリアが問題になっています。治療薬については、**熱帯病治療薬研究班HP**をご参考ください。

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/parasitology/orphan/HTML/page5.html>

マラリアについては、**国立感染症研究所HP**をご参考ください。

[http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k05/k05\\_04/k05\\_04.html](http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k05/k05_04/k05_04.html)

#### <麻しん>

4例の報告がありました。麻しんの排除を目指して、麻しん患者が減少していくなかで、検査診断は非常に重要です。麻しん特異的IgM抗体検査やペア血清による特異的IgG抗体検査等抗体検査が多く用いられていますが、疫学調査のためには、ウイルスの遺伝子型等性状が把握できるウイルス分離や、PCRのような遺伝子診断が望ましく、検査のためには、感染の早い時期に血液、咽頭ぬぐい液、尿といった検体を採取することが求められます。麻しん排除のためには全ての年齢で95%以上の抗体保有率が求められますが、平成21年度の全国感染症流行予測調査ではこのレベルに達していないのは、0～1歳を除くと、10歳、15歳のみであり、Ⅲ期、Ⅳ期の予防接種の効果が現れています。

麻しんについては、**横浜市衛生研究所HP**をご参考ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/measle1.html>

市内の麻しん届出数は、平成20年は1,485例、平成21年43例、平成22年32例でした。平成19年、平成20年と、東京都を発端として、首都圏に広く麻しんの流行が見られ、平成20年には全国麻しん届出数は11,015例でしたが、平成21年には739例、平成22年には455例と続けて減少しました。日本国内の状況では、今年第16週までに146人の患者が報告されています。東京都が51人と約3分の1を占めています。今年になって、東京都で検出された麻しんウイルスは24件(D4型16件、D9型8件)で、D4は欧州から(1月)、D9は東南アジアからの輸入例でした。現在、渡航歴の無い患者からも検出されていて、輸入例からの広がりや危惧されます。横浜市への影響も、監視していく必要があります。東京都の麻しんウイルス検出状況につきましては、**国立感染症研究所HP**をご参考ください。

<http://idsc.nih.go.jp:80/iasr/rapid/pr3752.html>

### <風しん>

4例の報告がありました。4例とも成人例です。平成22年、風しんの届出は、全国では89例、横浜市内は3例でした。今後の横浜市の風しん発生状況に注意が必要です。

風しんについては、**横浜市衛生研究所HP**をご参考ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/rubella1.html>

### <HIV感染症>

4例の報告がありました。2例は男性の同性間性的接触によるものです。2例は女性の異性間性的接触によるものです。全国でも数年来、男性の同性間性的接触での感染が多く見られています。

HIV感染症については、**横浜市衛生研究所HP**をご参考ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/hiv.html>

## 定点把握疾患

平成23年3月21日から4月24日まで(平成23年第12週から第16週まで。ただし、性感染症については平成23年3月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成23年 週一月日対照表

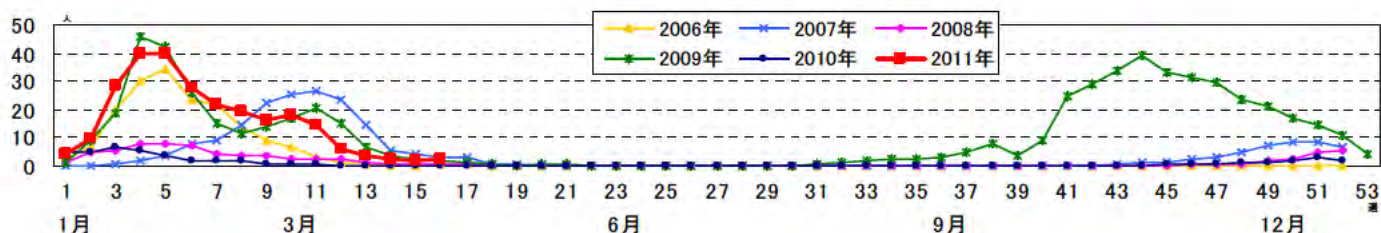
第12週	3月21～27日
第13週	3月28～4月3日
第14週	4月4～10日
第15週	4月11～17日
第16週	4月18～24日

### 1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:3か所の計201か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

### <インフルエンザ>

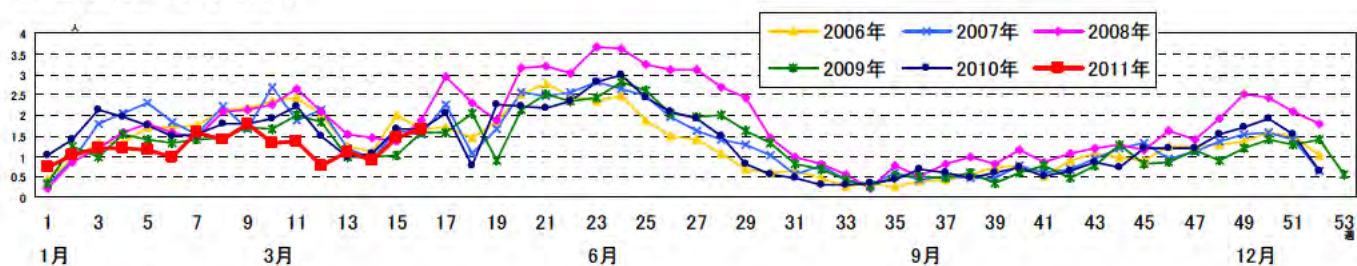
第16週は定点当たり2.35で、第15週の定点あたり2.04に比べ微増しています。全国7.56、神奈川県3.41、東京都5.43です。全国の第15週は6.42であり、全国的にも広く微増しています。長野県25.51、福井県19.47、石川県17.29が高めです。市内行政区別では瀬谷区8.50、金沢区3.57、戸塚区3.56が高く、年齢層では9割が20歳未満です。4月に入り、市内ではインフルエンザによる学級閉鎖が、2つの小学校から報告されていることもあり、引き続き低年齢の集団感染には注意を要します。迅速キットの内訳はA型17件、B型230件です。



### <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

第16週は定点あたり1.68です。全国2.33、神奈川県1.83、東京都2.76です。行政区別では、瀬谷区

6.25、港北区3.29、緑区3.25、泉区3.00が高めです。例年初夏からの流行が見られるので、今後の動向に注意が必要です。

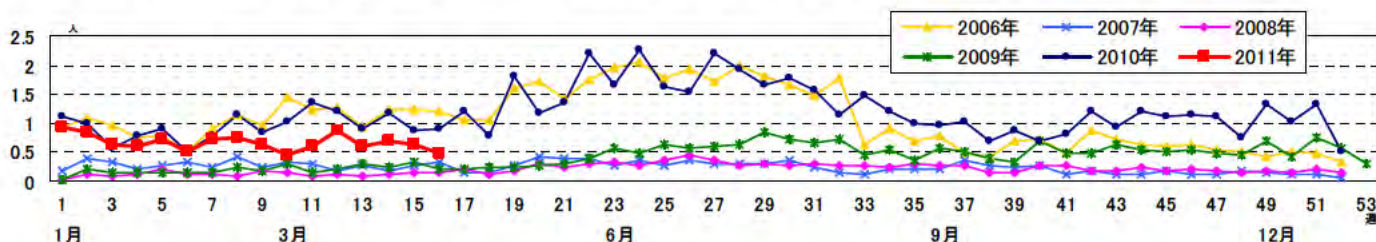


#### < 感染性胃腸炎 >

第16週は定点当たり6.41です。全国9.30、神奈川県6.72、東京都9.17です。鹿児島県18.18、富山県17.59、愛媛県17.41、福井県17.27、大分県15.69が比較的高めです。行政区別では神奈川区14.50、戸塚区11.80が高めです。なお、4月の定点からの検出状況は、3検体中A群ロタウイルス2件でした(ノロは検出なし)。

#### < 流行性耳下腺炎 >

第16週は定点当たり0.49です。全国は0.78、神奈川県0.39、東京都0.23です。2010年は市内では5年ぶりの流行の年となりましたが、今年に入り漸減し、落ち着いてきています。



#### < 性感染症 >

性感染症は、産婦人科系の10定点、および泌尿器科・皮膚科系の17定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。3月は性器クラミジア感染症が男性19件、女性13件。性器ヘルペス感染症が男性5件、女性7件。尖圭コンジローマが男性6件、女性2件。淋菌感染症が男性6件、女性1件でした。

#### < 基幹定点週報 >

細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告は、今年に入って1件もありません。マイコプラズマ肺炎は、第4～6週に計4件ありました。

#### < 基幹定点月報 >

3月は、メチシリン耐性ブドウ球菌感染症が男性13件、女性8件(計21件)、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症が0件、薬剤耐性緑膿菌感染症が男性1件(計1件)、薬剤耐性アシネトバクター感染症が0件でした。

【 感染症・疫学情報課 】

## 2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っていません。

### <ウイルス検査>

4月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点52件(鼻咽頭ぬぐい液41件、ふん便・直腸ぬぐい液11件、基幹定点6件(鼻咽頭ぬぐい液3件、髄液2件、ふん便1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点はインフルエンザ(疑い例を含む)16人、胃腸炎11人、下気道炎10人、上気道炎10人、発疹症3人、アデノウイルス感染症2人、基幹定点は無菌性髄膜炎2人、インフルエンザ、下気道炎、胃腸炎、不明熱各1人でした。

5月10日現在、小児科定点のインフルエンザ患者10人、下気道炎患者2人、上気道炎患者1人、胃腸炎患者1人からインフルエンザウイルスB(以下inf B)型、インフルエンザ患者2人からインフルエンザウイルスAH3(以下inf AH3)型、アデノウイルス感染症患者2人とインフルエンザ患者1人からアデノウイルス(2型、6型と型未同定各1例)、胃腸炎患者2人からワクチン由来のポリオウイルス1型、基幹定点のインフルエンザ患者1人からinf B型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、下気道炎患者3人からヒトメタニューモウイルス、小児科定点のインフルエンザ患者2人からinf AH3型とinf B型が各1例、上気道炎患者2人からアデノウイルス3型、別の上気道炎患者2人からライノウイルス、胃腸炎患者2人からロタウイルス、発疹症患者1人からヒトパルボウイルスB19型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

### <細菌検査>

4月の感染性胃腸炎関係の受付は小児科定点からの検体はありませんでした。基幹定点からは菌株受付が2件、定点以外の医療機関等からは3件あり、腸管出血性大腸菌、*Salmonella Infantis.* がそれぞれ1件ずつ検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点からの6件で、5件からA群溶血性レンサ球菌が検出されました。その血清型はT1、T4、T12、TB3264でした。定点以外の医療機関からは、B群溶血性レンサ球菌が3株と *legionella pneumophila* が2株検出されました。

表 感染症発生動向調査における病原体検査(4月)

感染性胃腸炎							
検査年月		4月			2011年1月～4月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数		0	2	3	1	16	7
菌種名							
赤痢菌						1	1
腸管病原性大腸菌							
腸管出血性大腸菌				1			2
腸管毒素原性大腸菌							
チフス菌							
パラチフスA菌						2	
サルモネラ				1			1
カンピロバクター							
黄色ブドウ球菌							
コレラ菌							1
不検出			2	1	1	13	2
その他の感染症							
検査年月		4月			2011年1月～4月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数		6	0	5	20	4	21
菌種名							
A群溶血性レンサ球菌		T1			6		
		T4			3		
		T6					
		T12			5		
		T13					
		T25			1		
		T28					
		T B3264			2		
		型別不能					
B群溶血性レンサ球菌				3			3
G群溶血性レンサ球菌							
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						4	
バンコマイシン耐性腸球菌							15
髄膜炎菌							
<i>Streptococcus suis</i>							
<i>Corynebacterium ulcerans</i>							
<i>Legionella pneumophila</i>				2			2
セレウス菌							
破傷風菌							
不検出		1	0	0	3	0	1

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】